

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のメンバーによる

# ウィーン八重奏団

## Wiener Oktett

1947年設立の  
伝説的アンサンブルが再始動！  
ウィーン・フィルメンバー8名が贈る  
(最年少コンマス、そして3人の首席奏者を含む)  
優雅で軽やかな“ウィーンの響き”

マティアス・シヨルン  
(首席クラリネット)

ヨーゼフ・ライフ  
(首席ホルン)

セバスティアン・  
フュリンガー  
(ヴィオラ)

カタリーナ・  
エンゲルブレヒト  
(第2ヴァイオリン)

ベネディクト・ディンクハウザー  
(コントラバ)

クリストフ・ウイマー  
(首席コントラバ)

ヤーメン・サーディ  
(コンサートマスター)

ヴォルフガング・ヘルテル  
(チエロ副首席)

2026  
4/25 (土) 2:00PM 開演 (1:15PM 開場)

兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール  
〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22 阪急西宮北口駅南改札口スグ/JR西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)  
A 6,000円 B 4,500円 C 3,000円 D 2,000円(税込/全席指定)

ご予約・お問合せ 芸術文化センターチケットオフィス 0798-68-0255  
10:00AM-5:00PM 月曜休み ※祝日の場合翌日

一般発売 12/21(日)	チケット 予約	●芸術文化センター 0798-68-0255 <a href="https://www.gcenter-hyogo.jp">https://www.gcenter-hyogo.jp</a> 芸術文化センター会員先行予約受付開始 12/20(土)	●チケットぴあ <a href="https://pia.jp/t/">https://pia.jp/t/</a> ●ローソンチケット <a href="https://l-tike.com">https://l-tike.com</a> ●イープラス <a href="https://eplus.jp">https://eplus.jp</a>
------------------	------------	--	--

直接購入 芸術文化センター2階総合カウンター【12/23(火)より、残席がある場合のみ】 主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

※未就学児童のご入場はご遠慮ください。※やむを得ない事情により、出演者、曲目等が変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。※プレイガイドでの販売はインターネットのみです。詳細については各プレイガイドにお問合せください。

### Program

モーツァルト：歌劇『フィガロの結婚』序曲 K.492(八重奏版)  
Mozart: Le nozze di Figaro(The Marriage of Figaro), K.492: Overture(arr. for octet)

モーツァルト：クラリネット五重奏曲 イ長調 K.581  
Mozart: Clarinet Quintet in A major, K.581

\*\*\*

シューベルト：八重奏曲 ヘ長調 op.166, D803  
Schubert: Octet in F major, op.166, D803

兵庫県立  
芸術文化センター

関西から  
文化の  
POWER OF  
CULTURE

# ウィーン・フィルの新世代メンバーが紡ぐ優雅な調べ 伝説のコンサートマスター、ボスコフスキーが設立した “ウィーンの響き”の象徴たるアンサンブル

1947年、当時のウィーン・フィル伝説のコンサートマスター、ボスコフスキーが設立した“生けるウィーン音楽伝統の証”、ウィーン八重奏団。率いるのは、2025年9月22日にウィーン・フィルの新コンサートマスターに就任したばかりのヤーメン・サーディです。メンバーは8名全員がウィーン・フィル団員で、クラリネットのマティアス・ショルンほか首席奏者3名と副首席奏者1名を含み、まさに21世紀のウィーン・フィルを象徴するアンサンブルといえます。

薫り立つウィーン。奏でる曲目も、実に優雅で軽やかです。まず

は、モーツァルト珠玉の傑作、歌劇『フィガロの結婚』序曲から。同じくモーツァルト クラリネット五重奏曲は、あのアインシュタインをして「最も洗練された室内楽作品」と言わしめた名曲です。後半は、シューベルト円熟期を代表する八重奏曲を、彼らならではの優雅な演奏でご堪能いただけます。

ウィーンの特徴的な音楽文化を脈々と継承しつつ、新たな道を切り開く新世代の精鋭アンサンブル。伝統と革新をあわせもつ優雅な響きを、どうぞお楽しみに。



## ウィーン八重奏団 Wiener Oktett

1947年に、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の伝説的コンサートマスター、ヴィリー・ボスコフスキーにより創設された、ウィーン・フィルの豊かな伝統を体現する世界屈指のアンサンブル。ボスコフスキーはシュトラウスのワルツやポルカの解釈で世界的な名声を博したのみならず室内楽にも情熱を注ぎ、新たな水準を打ち立てた。この八重奏団は「ウィーンの響き」、すなわち優雅さやダンス的な軽やかさを中心に据えていた。設立からわずか数年後には国際的な演奏活動および録音活動において高い名声を確立する。とりわけシューベルト《八重奏曲 へ長調》の録音は、新たな芸術的基準を打ち立てた名盤として知られている。加えてベートーヴェン、ハイドン、モーツァルトといったウィーン古典派作品にも積極的に取り組み、常にそれぞれの様式にふさわしい演奏をしてきた。以後数十年にわたり世界の主要な音楽都市で演奏し、聴衆と批評家のどちらからも絶賛を浴びてきた。ボスコフスキー時代の後

には、同じくウィーン・フィルのコンサートマスターだったウェルナー・ヒンクが、自身の創設したウィーン弦楽四重奏団とともに八重奏団の伝統を継承しウィーン音楽芸術の象徴として存続させた。そして今、ウィーン八重奏団は新世代の音楽家に受け継がれ、貴重な遺産を未来へと導いている。中心に立つのはウィーン・フィルでいま最年少のコンサートマスターであり国際的に高い評価を得ているヤーメン・サーディだ。そしてカタリーナ・エンゲルブレヒト（ヴァイオリン）、セバスティアン・フーリング（ヴィオラ）、ヴォルフガング・ヘルテル（チェロ）、クリストフ・ヴィマー（コントラバス）、マティアス・ショルン（クラリネット）、ベネディクト・ディンクハウザー（ファゴット）、ヨーゼフ・ライフ（ホルン）、8人全員がウィーン・フィルのメンバーで構成されている。ウィーン八重奏団は伝統と現代を結ぶ架け橋としての存在を自らに課している。ウィーンの特徴的な音楽文化を継承しつつ新たな道を切り開き、若々しい活力と芸術的自立性とともに未来へ挑むのである。ウィーン八重奏団は、生きたウィーン音楽伝統の証として存在し続ける。



<https://www.gcenter-hyogo.jp>

兵庫県立芸術文化センター  
Hyogo Performing Arts Center

先行予約会員募集中!

詳しくは、<https://www.gcenter-hyogo.jp>

## 便利なアクセス!!

大阪梅田からも神戸三宮からも  
ホールまで15分  
(阪急電車特急乗車の場合)

◎阪急 西宮北口駅 南改札口 スグ(連絡デッキで直結)

◎JR 西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)

※ご来場は、電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。

## アクセス

